

目 次

平成30年 3月13日（火曜日）第2号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○一 般 質 問	辻議員 -----	3 頁
	・引き続き町政を担当する意志は	
	柏倉議員 -----	4 頁
	・行政機構の見直しを	
	・高齢者の交通手段の確保は	
	高森議員 -----	8 頁
	・理科大の一連の報道について	
	大谷議員 -----	10 頁
	・高齢者「地域サロン」で仲間づくり	
	長崎議員 -----	11 頁
	・移管される国保事業は	
○休会の決定	-----	13 頁
○散 会 宣 告	-----	14 頁

平成30年第1回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 平成30年 3月13日（火）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開議日時 平成30年 3月13日（火） 午前10時00分

◎応招議員（10名）

1番	北川佳嗣	6番	大谷敏弥
2番	長崎厚	7番	村川毅
3番	辻紀樹	8番	角健
4番	高森功治	9番	柏倉恵里子
5番	橋本收司	10番	辻義雄

◎不応招議員 なし

◎出席議員 応招議員に同じ

◎欠席議員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	木幡正志	水道ガス課長	佐藤剛
副町長	佐々木伸也	出納室長	小川洋
総務課長	本前武広	消防長	佐藤英代
まちづくり新幹線課長	加藤慶一	病院事務長	田辺知行
まちづくり新幹線課参事	寺島進一	教育長	近藤英隆
税務課長	中森恵	教育次長	岡野喜美雄
町民課長	中里博也	教育委員会事務局参事	佐藤修
保健福祉課長	豊嶋慎一	選挙管理委員会書記長	本前武広
産業振興課長	中山裕幸	監査事務局長	岡部忠
産業振興課参事	中田信樹	農業委員会事務局長	中山裕幸
建設課長	神野隆之	農業委員会事務局次長	中田信樹

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	岡部忠
議事係長	増田理恵
議事係	岡田幸

◎議事日程

日程第1

一般質問

◎開議宣告

10時00分 開会

- 議長（辻義雄） ただいまの出席議員は10名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。
-

◎一般質問

- 議長（辻義雄） 日程第1、一般質問を行います。質問通告書は事前に配付しておりますが、質問者は5名、質問件数は6件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員40分以内と決定しております。質問時間の終了3分前と、終了時にブザーを鳴らしますのであらかじめご承知おきください。それでは順次質問を許します。

辻紀樹議員。

〔議員（3番 辻紀樹）登壇〕

- 議員（3番 辻紀樹） 私は1点ご質問をいたします。引き続き町政を担当する意志は。

木幡町政誕生から3年8か月が経過、公約でありました「高齢者増に伴うグループホームなどの整備」「中学生までの医療費無料化」「災害時の避難路の確保と整備事業」に積極的に取り組み、「中学生までの医療費無料化」を実現。特に新幹線駅が地上駅から高架駅への計画変更を成し遂げたことなど、困難な政策に臨み、的確な判断を下し堅実に実行したことに敬意を表するものであります。

今、長万部町は新幹線駅を中心としたまちづくりや、東京理科大学と連携したアグリビジネス事業の実施、公共施設の再編計画策定に取り組みされており、今後示される計画や成果は、長万部町の未来に多大な影響を及ぼすものとなります。

本年7月には、町長の任期を迎えます。町民が思い描く夢の実現に向け、引き続き町政を担うお考えがあるかどうかお伺いいたします。

〔議員（3番 辻紀樹）自席へ〕

- 議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

- 町長（木幡正志） 引き続き町政を担当する意志はということでございますので、回答をさせていただきます。

私は、平成26年7月23日、長万部町長に就任以来今日まで3年8か月、長万部町の未来のまちづくりを創造するため、喫緊の課題を公約として、中学生までの医療費の無料化、学童保育所の開設や高齢者増によるグループホームなどの整備、安心安全なまちづくりを目指し災害時避難路の確保と整備、農林水産業の活性化と生産の拠点となる静狩漁港・長万部漁港・国縫漁港等の整備、北海道新幹線長万部駅の高架化の実現とトンネル工事事務所の誘致、東京理科大学との包括連携協定の締結と地方創生事業連携、B&G財団との不断の親密な交流や長万部町との関係企業の交流等、保育所・幼稚園等第2子以降の保育料の無償化など、町財政が厳しい状況の中で、財政健全化に配慮しつつ、町民の声に耳を傾け、議会の皆様のご理解を賜り、多くの職員のご尽力を頂きながら、

諸施策を進めてまいりました。

引き続き町政を担当する意志はとのご質問ですが、町長としての重責を努めさせて頂いている1期目任期途中でありますが、今日までの経験を活かし、町民の生命・財産を守るという使命感を持って、防災行政無線の整備や更なる子育て支援の強化を推し進め、北海道新幹線長万部駅周辺整備等、一次産業の活性化、とりわけ商工活性化策の検討も含め政策課題として継続して取り組まなければならない幾多の課題もあり、熟慮を重ねた結果、7月の町長選挙に立候補し、町民の皆様の審判を仰ぎ、ご理解ご協力を賜りながら、再び長万部町の活性化に全力を傾注する所存であります。

以後よろしく願いいたします。ありがとうございました。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 以上で辻紀樹議員の質問を終わります。

柏倉議員。

〔議員（9番 柏倉恵里子）登壇〕

○議員（9番 柏倉恵里子） 私は2点質問いたします。行政機構の見直しを。

まちづくりアクションプランが、3月中旬に策定される予定となっております。ロードマップには、平成42年度の開業までにやるべきことが示されておりますが、その仕事量は膨大であります。

現在進行しているアグリビジネス事業も同じ課が担当しており、どちらもこれからの長万部町にとって重要な事業であることから、お互いに専門性を持たせるためにも課を分ける必要があると考えます。また、保健福祉課においても、町民の健康づくり計画（素案）、第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）を見ても課題は山積しております。地域包括ケアシステムを構築するためには、原課がもっと地域と密着していく必要があると思います。

現在の課の体制でできるのか、保健師の人数を増やすなどの政策が必要と考えますが、町長の所信を伺います。

2問目。高齢者の交通手段の確保は。

現在、蕨岱・静狩方面には町のバスが運行されており、地域の方々から喜ばれています。しかし、長万部町内でも、線路を挟んで山側の地域を見たとき、病院、金融機関、役場、スーパーは全て線路より海側に集中しており、徒歩の場合、なかなか厳しい状況におかれていると言えます。例えばバス停に行くことさえ大変なときもあります。

そこで、町のバスを巡回する方法、あるいは乗り合いタクシーによる方法などを考えてはいかがでしょうか。タクシーチケットも助かりますが、住んでいる地域によっては使用する頻度が少ない方もいらっしゃると思います。町はだいたい把握していると思いますが、公平ではないことも確かです。

町長の所信を伺います。以上です。

〔議員（9番 柏倉恵里子）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 2点の質問についてお答えをいたします。行政機構の見直しを。

ご質問のありました「行政機構の見直し」であります。現在の地方を取り巻く環境は、住民ニーズの多様化・複雑化に伴い、様々な分野で行政需要が増大する一方で、過疎化の進展などにより、財政事情は一段と厳しさを増している状況にあります。特に小規模自治体においては、定員管理の面からも職員の大幅な増員は難しいところではありますが、2030年度の北海道新幹線延伸を見据え、本町においては、まちづくり新幹線課の設置、業務に精通した参事職の配置、都市計画部門の

所管替え、土木技術職員の確保など、新幹線長万部駅の開業に向けた着実な取組みを進めてまいりました。

行政機構の見直しについては、現段階で実施の予定はありませんが、ご指摘のありました、まちづくりアクションプランや町民の健康づくり計画に基づく各種施策など、今後、業務量の増大も予想されることから、外部委託の効果的な活用も検討しながら、先進自治体の取組事例や本町の特性などを考慮したうえで、より効率的で効果的な業務の遂行に努めてまいります。

2点目。高齢者の交通手段の確保は、ということでございますのでご回答申し上げます。

高齢者の交通手段の確保は、という質問でございますが、議員もご承知のとおり、町では高齢者等の社会参加や、日常生活の中でタクシーを交通手段のひとつとして容易に利用できるよう、その料金の一部を助成しております。また、老人福祉バスは、老人の教養向上と老人相互の親睦、健康保持の増進、地域活動の効果的な向上を図るため、老人福祉センターへの送迎、福祉の増進のための研修、調査視察等に運行しております。

現在、老人福祉センターへの送迎は、長万部を7コースに分け、月1回の運行を行っており、静狩・蔵岱方面については交通機関が少ないことから、月3便の増便の運行を行っているのが現状であります。

高齢者が増加する中で、交通手段の確保は切実な問題だと認識しておりますが、簡単には解決できないと考えており、長万部町全体の交通体系について考えていかなければならないと考えます。

当面は、現状を維持しつつ、財政状況を踏まえ、老人福祉バスでの対応を検討して行きたいと考えております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 何点か質問をさせていただきます。まず1点目の行政機構の見直しということで。現在まちづくり新幹線課にいただいている参事職は、今年で任期が切れるところでありましてけれども、道からはまた職員派遣はいただけるのでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今年もまた、建設関係の参事職で、長万部相互派遣の中で4月2日に就任することになっております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 分かりました。土木技術職員の確保ってということでなされてきたようでありますけれども、まずこの土木技術職員、必要な資格というのは何になりますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 土木技術の採用の資格は、1級土木技師です。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 新幹線に関しては、これから町民の中に入って行って、実際に土地の所有者とか、それからあと、例えばまちづくりにしても、町が土地を買い上げるのか、また道路幅を拡幅するなど、そういうふうになった時に、やっぱり移転補償の問題とか、あるいは商店街においては、やっぱり商店主との折衝とかこれからどんどん密になって行って、仕事量は本当に今までと違って、今までは計画を立てる段階で、しかも策定で、これから変わり得る部分もあると思うんですけど、これからは1対1の話ってというのがどんどん増してくるのかなと思うんですけど、そういうときに、やはりこのアグリビジネスと、行政機構見直すつもりはないっておっしゃってるん

ですけど、やっぱりこのアグリビジネスと同じ課が担当して、同じ課長が議会对応なさってるんですよね。これすごく大変なことだと思うんです。だから、おのあの作業を分担して、専門性を持たせるってことが、私はすごく大事になってくると思いますし、また、参事職、参事っていうのは、担当課長の一応、下になるんですかね。課長職より上ですかね。それひとつ、すいません。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 参事職は、課長と同等の待遇になります。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 分かりました。同等の対応であれば、建設でいらっしゃると。専門分野でいらっしゃるといことですね、今回。であるならば、やっぱり新幹線に特化して、十分力を発揮していただければなというふうに思いますし、この地方創生なので、どうしてもその今の課と同じ課が行政の中に入ってしまうので、同じ課長が答弁するっていうことになってしまう、議会对応なさるっていうことになると思うんですけども、こちら辺、現状のままで変えるつもりはないとおっしゃってるんですけど、もう一度すいません、お願いします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 新しく着任する、道から来る派遣の人も、まちづくり新幹線課の参事待遇で入ります。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 分かりました。保健福祉課の方においては、外部委託の効果的な活用ということでありまして、外部委託先、現在長万部町に委託先というか、相手先はありますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今保健福祉課の方の外部委託っていうお話してございましたが、私どもの答弁は、まちづくり新幹線課の外部委託を、答弁とさせていただきますので。外部委託というのはこれ、職員も相互であるんですが、例えば都市計画マスタープランを作るとか、そういった際のコンサルタントに外部委託するっていう内容であります。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 分かりました、すいません。ではあの、先進自治体の取り組み事例っていうことも載っておりますので、どこを、まあある程度ポイントあると思うんです。ここがいいとかっていう、ここすごい参考になったとかっていうところあると思うんですけど、ここは取り組み事例なんかはどこを参考になさるつもりですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 議員の皆さんも視察に行っておられた、今既に動いてる木古内、木古内町の事例を我々も参考にしていきたいなど、そして現在長万部の駅長さんが、前に木古内の駅の駅長をされてた及川さんって方なんですけど、その方が今長万部に着任されておまして、まちづくりの協議会の委員もなさっている。非常に参考な意見を出していただいているので、今ちょっとすいませんけど、個人名出してしまっておし訳ないです。そんなことで、木古内には新幹線対策室、振興室だ。ということも今継続してやっておられますので、そうしたところを先進地の事例として今後ご指導いただきながら進めていきたい、そういうことです。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 1点目終わります。2点目ですが、現在老人福祉センターへの送迎

で7コース、月1回の運行なんですけれども、これ老人福祉センターにしか行かないんですよね。それで、これだと多分乗る人はほとんど限られているのかなというふうに思います。これ月1回の運行を増やすとかっていうお考えはないですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） いろんな交通体系の中で、今蕨岱方面、静狩方面、これは本当に足がないってことで、増便をしながらやってきております。それで現在いろんな要望、町民の方のほうからもいろんなご意見要望いただいているので、7コースあるうちのコース付けを今研究させていただいております、職員もバスに同乗しながら、どれだけの利用あるのか、それと今、老人福祉センターだけの行き方なんですけれども、それを経由しながら、ある程度ルートを選択することによって、もう少し利用しやすい方向になるのかなってことで、今若干町民の皆さんのご意見に答えていけるような、形で調査させている段階でございます。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 確かにコース、老人福祉センターだけではなく、やっぱり町の中にも行く目的先があると、利用する人も増えてくるのかなというふうに思うんですけれども。それは分かりました。平成18年頃に地域公共交通会議っていうものが、自治体の主催で立ち上げるっていうことのガイドラインが出たと思うんですけれども。これは、長万部で言えば函バスと、それからニセコバスと、それからあとタクシー業界と、それからまた、そこに住民または利用者の代表とか、そういういろんな方を入れながら、地域公共交通会議を立ち上げた方がいいっていう話が出てくるんですけれども、これは町長、立ち上げるおつもりはありませんか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） この会議は、本当にリアルの、瀬棚線のような廃線になった、あとバス路線も廃線になったってことで、その町の交通体系が完全に崩れた場合、新しく構築するために、各事業者、皆さん入れて、会議を開いて長万部の交通体系をどうするかっていう会議の有り様なんですね。長万部の場合、今一番北海道でも恵まれすぎてくらの交通体系を持ってて、JRは特急も走ってる、普通便も走ってる、そうした中で函バスさんは瀬棚便、それから函館まで向かう便走ってる。ニセコバスも入ってる。こういう交通体系の中を考えたら、今の段階でそういう会議を進める必要があるのかなって考えたら、やっぱり完全に二次交通、今後の全く交通体系が崩れた場合、こういうときにしっかり立ち上げていかなきゃいけないけれども、今の体制ではちょっと必要性がないのかなと、そうも考えておりますので、ご理解していただきたい。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） まあ確かに町長のおっしゃるとおり、いろんな手段で町の中にも出てこれるし、地方にも行けるのかなと思うんですけれども、町としても函バスとそれからニセコバスさんには負担金として、補助金じゃないですよね、負担金として確か出していると思います。その金額も、毎年ずっと出し続けてるわけで。利用頻度っていうか、どのくらいの方が乗られているのかは私もちょっと把握はできておりませんが、そういうことの話し合いも、乗る人数が少なくても出す金額は同じなんですよね。町としては、負担していかなければならない。これも大事な足の確保なんですけど。やはりそれが整っているから、これを立ち上げなくていいのかっていうことではなくて、やっぱり路線バスさんと協議っていうのも大事になってくるのかなって。これからの路線バスがあるところは結局ほかの、例えばいこい号だって、そういうバスと競合しないようにして、やっていくっていうのが、今までずっとそういう定義でやってきたと思うんです。ただ路線

バス走ってるところにはこれは行かないっていう形になってしまうので、それだと町民の方は、じゃあ路線バスが通ってるからそれで全て賄えるかっていったら、決してそうではない場合もあると思いますので、やはりこれを立ち上げて、やってみて、意味がないんだったら、それは開催回数は少なくてもいいと思うんですけど、立ち上げだけはやる必要があるんじゃないのかなって思うんですけど、いかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 去年、北豊津の駅が廃駅、廃止になって、国道5号線を走る函バス、全くその豊津・豊野地区を住宅があるところ走らないっていうことになって、函バスさんの方でいろんな協議をしながら、将来その高齢者が免許返納をした場合の足がなくなるっていうことで、函バスさんと協議をさせていただいて、快く今、去年の11月かな、11月から新ルートで今完全に北豊津入ってもらってやっているんです。うちとして協議会立ち上げて、全てこんな形でやって、協議会を立ち上げて協議するっていったところまでの必要性は今のところ感じてない。それで、できれば路線の変更をお願いするのもそうなんです、やっぱり例えばニセコバスさんも、バスの減便だとか、いろいろ、運転手さんの調達の関係で減便をしなきゃいけないっていう部分も出てきてるし。そうしたことで新たに長万部に入ってくる交通体系が崩れていくようなことになってくると、それはそのときにやっぱり事業者の皆さんに加盟していただきながら、そうした会議の立ち上げは必要になってくるのかなと思っております。今高齢者の、交通体系の問題、あれも今出てる話が、例えば福祉バスの話ひとつにしてもね、高砂・南栄、この例えば温泉から高砂に通る長万部線、それから中山大通線、それから山線、道路3本あるんですあそこ。ところが商店は、だんだん減少してきて、高砂の商店は1軒、あと南栄にコンビニエンスストアと、それからチェーン店が1つ。本当にいつか、ここ何年かのうちに急激に不便になった地域なんですよね。この3本ある路線をどういう形で利便を高めるようなコースにしてくかっていうこと。それがどういう形でやるかっていう、あまり民業の圧迫もさせられない、やっぱり事業者の人が成り立つようにしないといけない。先ほども話したとおり、高齢者運転手の免許返納ってのもこれから起きたときに、一番早くから町として栄えてきた、住宅地として栄えてきた、高砂町だとか南栄町、ここが今非常に高齢化率が高くなってる。そこを今後どういう形で利便性を確保してやるか、それが最大の課題になってくるんで、今職員が乗って調査をしながら、そうしたことを含めて、路線の研究もしていかなければならない。将来に向けた運転手の高齢化のための返納の起きた場合にはどういう対処をしていくか。これも含めて高齢者交通の体系のあり方っていうのは考えて行かなきゃならないそう思ってます。

○議長（辻義雄） 以上で柏倉議員の質問を終わります。

高森議員。

〔議員（4番 高森功治）登壇〕

○議員（4番 高森功治） 私の質問は1点です。理科大の一連の報道について。

先月2月22日、テレビのニュースで東京理科大学長万部キャンパスの話題が放送されました。その後、数回にわたり新聞報道もされました。町民の関心も高いことから、現時点で町がこの報道に対して把握している内容をお聞きします。以上です。

〔議員（4番 高森功治）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 理科大の一連の報道について、ご回答申し上げます。

ご質問の東京理科大学長万部キャンパス関連の報道につきましては、先月、2月22日に東京理科大学のホームページで発表された「葛飾キャンパスにおける学部学科の再編について」の発表を受けての報道ということで、正確な情報としては、大学のホームページでの情報ではありますが、これについての情報整理と理科大側に確認した現時点で町が把握している情報につきましては、既に本定例会の3月8日に行政報告でお話ししたところであります。

基礎工学部を現在ある3学科を5学科体制とすることにより、学生数の規模を拡大した場合に、長万部キャンパスが対応できないため、4年間通しての葛飾キャンパスでの対応となることから、基礎工学部長万部キャンパスの1年生の全寮制教育解消となり、その実施時期については未定であります。長万部キャンパスは廃止ではなく、国際化のための教育の場としての活用を検討しているとのことであります。

本町といたしましては、理事長から話された、今後の長万部キャンパスにおける教養教育を今までの基礎工学部の教養課程以上の価値あるものにしていくための提案をしたいと考えているということ信じ、引き続き、今後の理科大長万部キャンパスの活用について、その具体策が早期に示されることに期待をしたいと考えております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（4番 高森功治） それでは、何点か再質問させていただきます。答弁書の中にも、基礎工学部長万部キャンパスの1年生の全寮制教育は解消となりますけれども、その時期については未定です。ということになっておりますけれども、これ例えば3年から5年の間だとか、5年から6年の間だとか、そういう大体の期間でも決まっていないということなのかお聞きします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変デリケートな質問、また答弁になると思いますので、私の方も気をつけてちょっと話をさせていただきます。

平成30年度入学者については、通常どおり長万部キャンパスにおける1年制全寮教育を行うことは確認されておりますが、具体的な再編年次については決まっておりません。特に今回も、3月26日に商工会で理科大生を迎えるための準備をしていきたいというお話しもございまして、4月9日、10日に入寮してくる学生を歓迎したいという話が商工会さんの方からちょっとありました。以上です。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（4番 高森功治） 基礎工学部の全寮制教育の解消後は、国際化のための教育の場として活用されるということですが、具体的にはほかの学部、学科等での全寮制教育が考えられているのかお聞きします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） まだ、何も決まってない状況ですが、留学生対応や、英語教育での活用を考えられているようであります。また、現在の寮は、1部屋4人となっておりますが、留学生の対応なども考慮し、プライバシーの確保を図るために、一部、部屋を2～3人とするなどにも検討されているようであります。年間を通じての全寮制教育として、学部学科が定着することに期待しておりますが、現時点でまだ、それらのことについても未定であります。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 答弁の中で、一部、部屋って言ったんですけど、一部屋ってことでご理解い

ただければと思います。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（4番 高森功治） 町では、長万部町創生総合戦略の中でも、重点戦略として東京理科大学と連携したまちづくりを進めるとしてはいますが、今後この位置付けは変わらないということでもよろしいんですかね。また、変わらないということであれば、理科大との関係において、今後どのような姿勢で対応されていくのか、その決意を含めてお聞きいたします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 長万部町創生総合戦略の重点戦略としての位置付けはなんら変わらず、引き続き理科大と連携したまちづくりを進めていきたいと考えております。地方創生事業のアグリ事業についても、理科大の協力もいただきながら順調に推移しており、なおかつ毛がにの養殖についての研究についても、理科大側からは、研究を継続させて是非とも成功させたいとの意向を確認したところであります。今後特許などが取得されれば、町に提供し活用してもらいたいとお話しをもいただいているところでもあり、また、幼・小・中・高・大と揃っている教育環境を、今後も最大限に生かしていけるよう、長万部高校からの推薦枠の確保についても、種々検討していき、高・大連携などの町内教育機関と、理科大との連携はもちろんのこと、町民と学生の交流する機会の創出などについても、積極的に対応していきたいと考えております。以上です。

○議長（辻義雄） 以上で高森議員の質問を終わります。

大谷議員。

〔議員（6番 大谷敏弥）登壇〕

○議員（6番 大谷敏弥） 私は1点について質問いたします。高齢者「地域サロン」で仲間づくり。

シニア層が自由に交流する「地域サロン」や「ふれあいサロン」などと呼ばれる集いが、高齢化が進む中、シニアの新しい居場所として注目されている。会話や情報交換だけでなく、趣味、学習、生きがい等、自然な見守りなどの効用もある。地域のお年寄りが集まって簡単な体操やゲームをしたり、昼食を食べながらおしゃべりを楽しんだり、一人暮らしの高齢者にとって貴重な「仲間づくりの場」になると思います。家に閉じこもりがちな高齢者に外出の機会をつくり、軽い運動やゲームで健康を維持し、いろんな人と交流してもらおう。知らない人と同じテーブルになれば顔なじみになるし、身体を動かせば脳も活性化する。また、音楽鑑賞等は痛みやストレスを軽減する効果が期待されます。また、地域で見守り「孤立死防止」にもなると思います。

町社会福祉協議会や行政の後押しで、各町内会に「地域サロン」や「ふれあいサロン」的な集まりの会を開設してはどうか。町長に伺います。以上です。

〔議員（6番 大谷敏弥）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 高齢者「地域サロン」で仲間づくりということでご回答させていただきます。

地域で高齢者の方々が生きがいを持ち、元気に暮らすきっかけづくりを見つけ、地域の人同士がつながりを深める活動は、大切なことであります。

ご質問の「地域サロン」「ふれあいサロン」については、その活動によって、体力づくり、認知症予防、心と体のリフレッシュ、仲間づくりや生きがい対策、さらには、地域のネットワーク形成にも役立つものと考えております。

現在、各町内会において、高齢者を対象としたお食事会、レクリエーション、趣味の活動など独自に様々な活動が行われており、大変心強く思っております。

町では、「まる元運動教室」「健康体操」「脳健康教室」などの高齢者の健康維持増進、さらには、憩いの場・集いの場として活動を進めております。

昨年「住民主体の通いの場」と題した講演会を実施し、「地域サロン」「ふれあいサロン」などに繋がる周知にも努めております。

様々な活動を通じて、さらに進化させながら、地域住民の社会的孤立を防ぎ、生きがいと健康づくり、また、安心して暮らせる環境づくりを進めてまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 大谷議員。

○議員（6番 大谷敏弥） 若干質問をいたします。ここに出てますこの「まる元運動教室」「健康体操」「脳健康教室」とありますけども、年間どれくらい開催して、また、参加人数はどれくらいいますでしょうか。

○議長（辻義雄） 豊嶋保健福祉課長。

○保健福祉課長（豊嶋慎一） お答えいたします。「まる元運動教室」につきましては、3地区で毎週1回開催をしております。今年度につきましては、4月から2月までの実績の回答となりますが、国縫地区で40回の開催で、延べ人数は738人。静狩振興会館、こちら41回、参加人数は467人。福祉センターでの開催が40回、こちらが585人。続きまして「脳健康教室」になります。これにつきましても3か月を1クールとして、毎週1回の開催という形で、高砂振興会館におきまして5月から7月の間13回の開催、延べ人数が256人。静狩振興会館、これが9月から11月までの開催で13回開催しております。延べ人数で153人。現在あつまんべで1月から3月まで、13回を開催予定ということで、まだ実績が出ておりませんので、ご了解ください。それと、運動教室なんですけども、これは月1回、1か所で開催しております。4月から2月末現在の実績で11回、参加者は延べ人数で126人となっております。以上でございます。

○議長（辻義雄） 以上で大谷議員の質問を終わります。

長崎議員。

〔議員（2番 長崎厚）登壇〕

○議員（2番 長崎厚） 私は1点質問をさせていただきます。移行される国保事業は。

30年度より移行される国民健康保険については、昨年9月定例会の一般質問への答弁は、最終的な確定納付金および標準保険料の通知は、30年1月頃の予定であると聞いています。

移行後の国保事業について、次の3点を町長にお伺いいたします。

1点目、北海道へ納める当町の納付金額は。

2点目、昨年8月末に公表された第3回仮算定値と最終決定算定値には差があるのか。

3点目、赤字の解消に対してどの様な対応を考えているのか。以上でございます。

〔議員（2番 長崎厚）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 移行される国保事業について、3点ご質問でございますので、順次お答えをいたします。

1点目の、平成30年度の本町納付金額はということでございますので、2億39万9,000

円となっております。

2点目の、昨年8月に公表された、第3回仮算定国保事業費納付金額と最終決定額の差額は、国から追加公費が拡充されることになり、本町納付金額は403万9,000円が減額されております。

3点目の、赤字解消対策については、平成28年決算での赤字額は9,442万4,000円となっており、これを解消するために赤字解消計画に基づき、取組みを実施してまいります。

具体的には、国保税賦課限度額の改正、国保税徴収対策の強化、医療費適正化への取組、疾病の早期発見・治療の強化等を推進し、保険者努力支援制度を活用いたしたいと思っております。以上です。

[町長（木幡正志）自席へ]

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 再質問を何点かさせていただきます。

1点目の、道に納める30年度の国保事業納付金が決まりまして、当町の国保の保険税を算定する際のひとつの基礎となるわけですが、道と長万部町のホームページを調べさせていただきましたが、直近の加入者数など分からないところがありましたので、お聞きをしたいと思っております。

納付金の算定するための対象年度と、当町での国保の加入者の割合、それと世帯数、加入者数をお聞きしたいと思います。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 担当課長から説明させます。

○議長（辻義雄） 中里町民課長。

○町民課長（中里博也） 事務的な部分になりますので、担当課の方からお答えをいたします。

対象の年度ということでございますけれども、過去3年の数字を元にして計算しておりますので、30年度については、27、28、29の推定の年度の数値となります。

国保の加入者の割合ということでございますけれども、これは30年度当初の割合でありますけれども、国保の加入者割合は、約28%、世帯数につきましては、約31%でございます。911世帯でございます。加入者数につきましては、1,529人です。失礼しました。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） ありがとうございます。それと、国保環境には大変今悪い状態というか、国保加入者が減少していると聞いてますが、これの主な要因として何が挙げられるのかお聞きします。

○議長（辻義雄） 中里町民課長。

○町民課長（中里博也） お答えいたします。大きな要因でございますが、主に社保加入が大きなものです。以上です。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 分かりました。2点目についてですが、30年度の納付金額、この金額は約2億円ですが、31年度も同額と考えていいのか、または違うのかお聞きしたいと思います。

○議長（辻義雄） 中里町民課長。

○町民課長（中里博也） これも、先ほどご説明しましたけれども、過去3年の数字を元にして計算することになりますので、31年度には、28、29、30年度の数字を使って算出することになりますので、当然これも変わってくると思っております。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） これの減額になっている部分、403万9,000円。これの大きな要

因として、追加公費が拡充されていると答弁いただきました。これは、31年度も同じく考えてもいいのでしょうか。

○議長（辻義雄） 中里町民課長。

○町民課長（中里博也） これにつきましては、国の施策になりますので、ちょっとよく情報が入ってきておりませんが、最近行われました連携会議等では、31年度以降の情報についてはありませんでした。以上です。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 31年度ですから、ちょっと無理もあるんですが。次に3点目の、赤字解消計画の対策として、財政支援の保険者努力支援制度を活用するとあるんですが、この保険者努力支援制度、簡単でいいんですが、内容と具体例を。

○議長（辻義雄） 中里町民課長。

○町民課長（中里博也） これも事務的な部分になりますので、担当課の方からお答えをいたします。

この努力者支援制度につきましては、北海道が市町村の医療費適正化等の成績を点数制で評価する制度でございまして、具体的には、レセプト点検ですとか、収納率の確保・向上、それから特定健診の受診率、糖尿病等の個別指導について評価しまして、この成績のインセンティブ分が、特別交付金に反映されることとなります。この成績を上げることによりまして、疾病の早期発見ですとか、早期治療に繋がってきますし、そのことで医療費が適正化され、納付金額にも大きく関係してくるのではないかとというふうに考えております。以上です。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（2番 長崎厚） 当町では、この赤字額は9,442万4,000円があるわけですが、これがただいま説明していただいた財政支援、保険者協力支援制度によって、解消されるということになれば、国保の加入者の保険税に、軽減策として使えるのではないかと思います。その辺はどのようにお考えでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 保険加入者の軽減策について、今の段階で「はい、そうなります」という形にはならない。だけどこれをぼって行って、どんな形で推移していくかっていうことで、今赤字解消の5か年計画も、今計画を提出させていただいてるということでございますので、その点ご理解をいただければと思っております。

○議長（辻義雄） 以上で長崎議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これで一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

◎休会の決定

○議長（辻義雄） お諮りいたします。予算審査特別委員会に付託された議案審査のため、明日14日と15日の2日間を休会したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。

よって、明日14日と15日の2日間を休会することに決定いたしました。

なお、本会議は3月16日午前10時から再開いたしますのでご承知おきください。

◎散会宣告

○議長（辻義雄） それでは本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れ様でした。

10時52分 散会
